



2023年6月12日

各位

会社名 第一工業製薬株式会社
代表者名 代表取締役社長 山路 直貴
(コード番号 4461 東証プライム市場)
問合せ先 取締役 清水 伸二
(TEL 075-323-5955)

中期経営計画「FELIZ 115」の修正に関するお知らせ

当社は、2020年1月30日に公表しました中期経営計画「FELIZ 115」の経営目標数値に関して、下記の通り修正することとしましたのでお知らせいたします。

記

1. 修正の内容

(1) 2025年3月期通期連結目標数値の修正(2024年4月1日～2025年3月31日)

	前回公表時	今回修正値	直近実績
	2025年3月期	2025年3月期	2023年3月期
売上高	850億円	700億円	650億円
営業利益	100億円	45億円	11億円
営業利益率	11.7%	6.4%	1.8%
ROE	10%以上	7.3%	△1.1%
総資産回転率	1.0回	0.88回	0.76回

2. 修正の背景

2020年4月からスタートした中期経営計画「FELIZ 115」は、計画2年でアクチャル(既存)事業の不採算事業の整理などを推し進め、事業ポートフォリオを再確認しました。

計画3年目からは、四日市霞工場を主に展開するネクスト(既存から派生した周辺)事業の成長ならびにライフサイエンスを軸としたドリーム(新規)事業を育成し、企業の成長を加速する計画でした。

ところが、新型コロナウイルスまん延による経済の停滞、ロシアのウクライナ侵攻を発端とした原材料、エネルギーコストの上昇等、想定を上回る事態が発生し、2023年3月期は、当社の収益構造に大きな打撃を与える結果となりました。

収益悪化の大きな要因は以下の3点と考えています。①原材料価格上昇分の転嫁遅れ、②注力分野(電子・情報など)を中心とした市況悪化ならびに主要顧客の需要低迷による販売数量減少、③②に起因した工場稼働率低下による工費アップです。

今期は、売上高680億円、営業利益25億円を業績目標値として既に情報開示しています。

当初掲げていた本計画最終年度 2025 年 3 月期売上高 850 億円、営業利益 100 億円（営業利益率 11.7%）から現状が大きく乖離するため、最終年度の修正が必要との判断に至りました。

3. 修正のポイント

- 地政学リスク等の外部環境、注力分野の各市況、主要顧客の販売状況等を鑑みて、最終年度 2025 年 3 月期は売上高 700 億円、営業利益 45 億円（営業利益率 6.4%）に修正します。
- 本計画時に想定した 2030 年 3 月期の目標売上高 1,350 億円、営業利益 180 億円（営業利益率 13.3%）は見直し、売上高 1,000 億円、営業利益 100 億円（営業利益率 10.0%）として総資産回転率 1.0 回をめざします。
- 本計画最終年度には、ライフサイエンス事業の黒字化に目途を立てる予定です。
①2023 年 2 月認知機能分野で機能性表示食品の届出が完了した「快脳冬虫夏草」を中心とする BtoC、②カイコ冬虫夏草粉末やスダチ果皮エキスなど素材販売を狙った BtoB、③グループ会社である池田薬草の受託事業拡大などにより、実績化を図る所存です。
- まずは、足元の業績回復および目標達成に注力します。次期中期経営計画については、あらためてご報告いたします。

4. 説明資料

当社ホームページには、詳細の説明資料を掲載しておりますので、あわせてご覧くださいませようお願い申し上げます。

※業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上